



<図書館 秋の企画①>

① 「江戸・明治」の展示会

10月3日(土)～10月11日(日)

場所：図書館3階 会議室

テーマ：「江戸を旅する・明治に学ぶ」

江戸時代の国絵図、明治時代の教育、郷土の文化人に関する資料展示をしています。今年は大学祭中も図書館を開けていますので、どうぞお立ち寄りください。

② 同 講演会

10月4日(日) 13:30～17:00

講演会はもう終わってしまいましたが、講演の様子は、10月24日(土)、25日(日)に、マープルテレビで放映されます。



◆ Contents ◆

<トピックス>

- ・図書館 秋の企画
- ・10月～11月開催の講習会

<お薦め図書> 「パズル本能」

<野村課長(4)>面白くないと思った本は最後まで読まなくていい

<シネマ&ブック(4)> 「ヴィヨンの妻」

開催中!

図書館
3階
展示会場



さあ、後期が始まりました。卒論、レポート作成の資料集めや資料管理、また、ふだんの授業の予習、復習に、次のような検索の方法を知っていると便利です。「講習会に参加するぞ!」なんて気張らずに、情報メディアルームに寄ったついでに、気軽に話を聞いてみてください。

図書館リテラシー講習会スケジュール(10～11月)

■開催時間 14:30～15:30

■場所:図書館 1階情報メディアルーム

10月

回数	講習内容	開催日
1	【初級】図書館利用と本の探し方	14(水)
2	【初級】日本語雑誌論文を探す -CiNiiをやさしくマスター-	21(水)
3	【中級】自然科学の雑誌論文を探す -JDreamIIで英文も一括検索-	23(金)
4	【初級】日本語雑誌論文を探す -CiNiiをやさしくマスター-	30(金)

11月

回数	講習内容	開催日
1	【初級】基本用語と関連サイト調査 -辞書系データベース JapanKnowledgeを使う	4(水)
2	【初級】図書館利用と本の探し方	6(金)
3	【初級】基本用語と関連サイト調査 -辞書系データベース JapanKnowledgeを使う	9(月)
4	【初級】新聞記事の探し方	11(水)
5	【中級】参考文献リストの管理 -Refworks 入門-	13(金)
6	【中級】参考文献リストの管理 -Refworks 入門-	18(水)
7	【初級】新聞記事の探し方	20(金)
8	【中級】自然科学の雑誌論文を探す -JDreamIIで英文も検索する-	25(水)

<お薦め図書>

『パズル本能：ヒトはなぜ難問に魅かれるのか?』

マーセル・ダネージ著

「はじめは4本足、つぎは2本足、さいごに3本足。これなーんだ。」

子供の頃、誰もが頭をひねったこの「なぞなぞ」、最初に出題したのは誰でしょう？

クイズのクイズになってしまいました。答えは・・・古代神話にでてくるエジプトのスフィンクス！

本書では、なぞなぞ、暗号、言葉あそび、数理問題など、実に幅広い“パズル”を出題するとともに、それぞれにまつわる物語や起源などを丁寧に紹介しています。人は古来より謎めいたものに魅せられ、一筋縄ではいかない問題を解決しようと必死になってしまう性分だというのです。実際、私たちの生活の中にも興味をひく身近な“ミステリー”があちこちに組み込まれていることに気づかされます。

このところテレビはクイズブームですが、すぐに解けるとスッキリ気分の良いものです。でもそれに満足して終わりにしてしまうのではなく、問いの更に奥に隠されている謎解きの糸口を、本書の中で見つけてみるのもおすすめです。(F) (2007.7 347p) ブック★コンパスで展示中 798/D36



<野村課長のワンポイント(4)>

面白くないと思った本は
最後まで読まなくていい

図書館の良いところはなんですか。それはズバリ、無料でたくさんの本が読めることです。いくら立ち読みしてもOK。気軽に本とつきあいましょう。

本屋に行って、気に行った新刊書があったとしても、持ち帰るにはお金がいります。いざ買って帰って本格的に読み始めて、おもしろくない、買うまでもなかったと思うと腹が立ってきます。

図書館の本はそんなことありません。読み始めて面白くなかったらその時点でやめればいいのです。返却期限前にさっさと返せばいいのです。関心の持てない本を辛抱して読み続けるだけの時間的余裕は、みなさんにはありません。

本館の建物内には78万冊の蔵書があります。大学4年間、どんなに頑張っても5,000冊は読めないでしょう。自分にとって意義のある本に出会うためには、面白くないような本に最後まで付き合う必要はありません。出会いを求めて、どんどん書架めぐりしてください。



<シネマ&ブック(4)>

『ヴィヨンの妻』

太宰 治著

太宰治は明治42年(1909)生まれで、今年誕生100年にあたります。各地で記念イベントが開かれているほか、作品も次々と映画化されています。

『ヴィヨンの妻』は短篇で、OPACで検索すると、岩波文庫(1957年刊)がヒットしました。鞆の中に入れておけば、ちょっとした待ち時間に読めてしまう話です。この岩波文庫本が購入されたのは、私の生まれた頃。なんと半世紀もの長い年月を、書庫の中で、また光が当たるのをじっと待っていたのですね。何だか愛しい。

短篇集ですが、旧かな使いやルビのない漢字に苦戦します。読書の秋、時にはこんな本にもチャレンジしてみてください。

映画は10月10日(土)公開。監督は「おくりびと」の根岸吉太郎です。戦後の混乱期、文学の才能はあるのに、どうしようもない飲んだくれの放蕩ダメ夫と、そんな夫に振り回されながらもしなやかに、たくましく生きる妻を中心にした話です。あまり模範的な夫婦ではないけれど、浅野忠信、松たか子が演じれば、危うさと、その中で感じるささやかな幸せも素敵に思えます。(A)

<図書館 秋の企画②>

●図書館蔵書リユース市

10月30日(金) 10:00~17:00

10月31日(土) 10:00~17:00

11月1日(日) 10:00~13:00

場所：大学会館3階 大ホール

今年も開催します。1冊100円から。掘り出し物を見つけるチャンス!どうぞ、お見逃しなく。



昨年の初日の様子

